

1月26日

聖パウロの協力者

聖テモテ・聖テトス

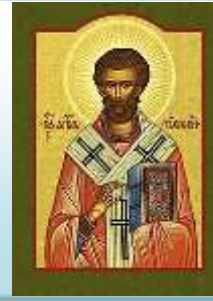
～パウロのよき協力者～

この二人は新約聖書に出てくる人物です。テモテは使徒言行録やパウロの手紙、またそれ以外の書簡に登場しますし、テトスはパウロの書いたコリントの信徒への第二の手紙やガラテヤの信徒への手紙に登場します。また二人に書いて出されたとされる手紙も、新約聖書の中に入っています。

テモテとは「神をあがめる者」という意味で、彼は現在のトルコにあたるルステラ出身のパウロの弟子でした。父はギリシア人で、母はユニケというユダヤ人でしたが、聖書の中にはパウロの第2回伝道旅行に同労者として行ったと書かれています。また一説には、第1回伝道旅行の時すでに、ルステラでパウロに会っていたとも言われます。彼は第2回伝道旅行でマケドニアに行った後、その地にあるフィリピやテサロニケ、ベレアの諸教会のために尽力したそうです。さらにその後、コリントでもパウロに協力していきました。

そして第3回伝道旅行の際にも、パウロを助け、フィリピ、コリント、エフェソを拠点として働きます。いわばパウロの右腕とも言える存在でした。

のちの文献によれば、テモテはエフェソ教会の初代司教として活



「テモテのイコン」

躍しますが、パウロが殉教した後、96年頃、ドミティアヌス皇帝の迫害下において、暴徒によって殺害されたと伝えられています。

次にテトスですが、彼はギリシア人で、パウロによってキリスト教の信徒になりました。彼もパウロのよき協力者でした。

テトスは前述のようにギリシア人であり、割礼を受けていませんでした。当時の教会において割礼の問題は重大な事柄であったため、この問題の協議のためにパウロはテトスとバルナバを同伴して、シリアのアンティオケアからエルサレムへ向かったとされます。このエルサレム会議が行われたのは52年頃のことでした。

テトスはパウロの代理者として、三回ほどコリントへ派遣されたと言われます。そして当時分裂していたコリント教会の問題を收拾するために努力し、その結果、和解に成功していきます。

後にテトスはクレタの教会の初代司教となったそうです。

<特禱>

天の父よ、あなたは聖テモテと聖テトスを伝道者、教師としてお召しになり、福音宣教の働きのため聖パウロの協力者とされました。どうかわたしたちも聖霊における聖徒たちとの交わりを保ち、イエスのみ名を証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。アーメン